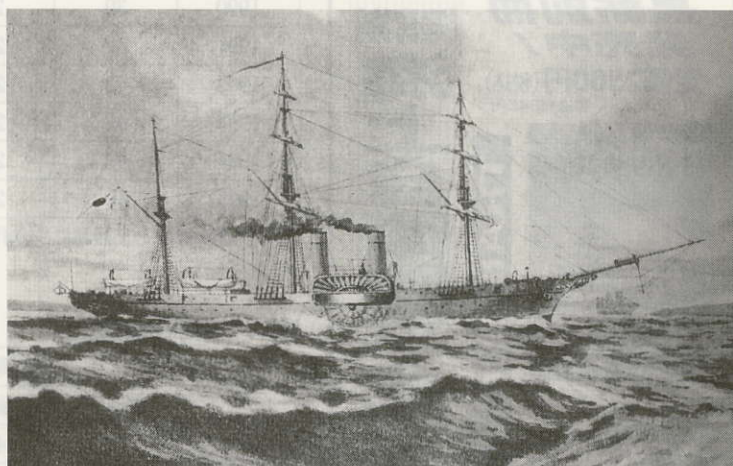
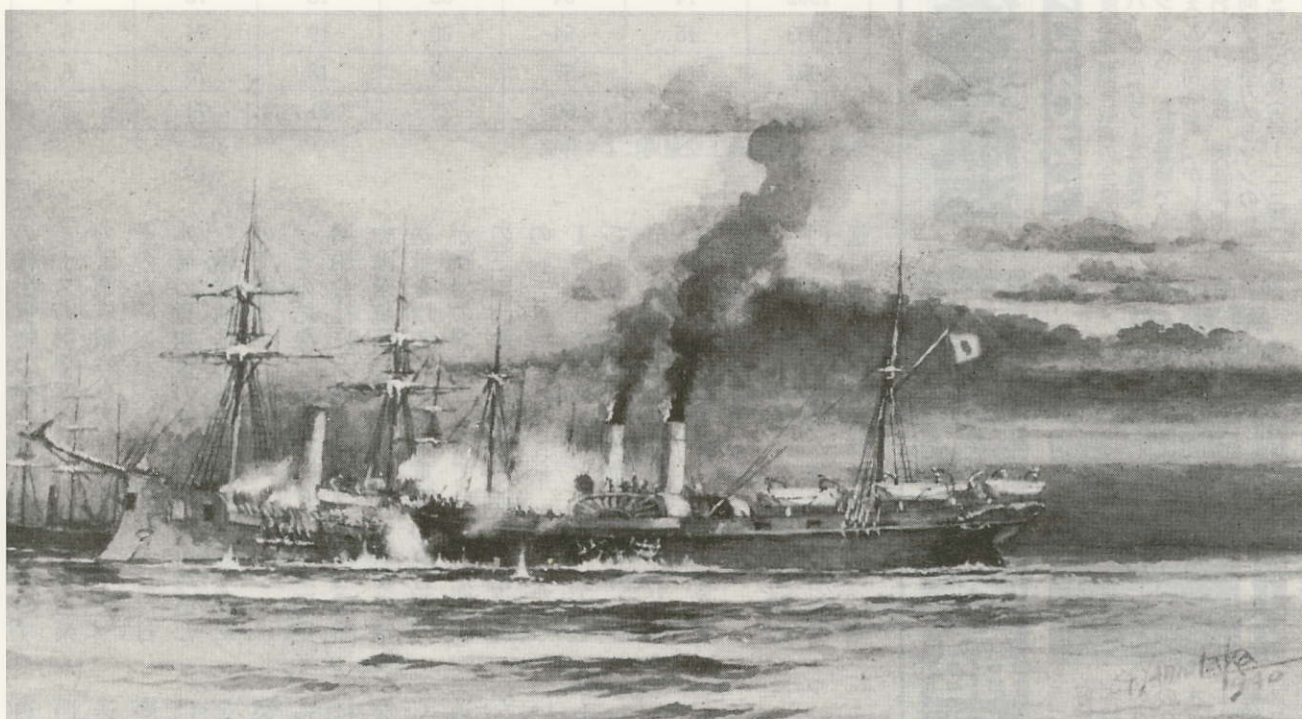


榎本艦隊の 主役として 孤軍奮闘



「回天」(造船協会『日本近世造船史』より)



宮古湾海戦の「回天」(右)と「甲鉄」(山高五郎『日の丸船隊史話』より)

回天

《主要目》 コルベット艦、木造、排水量1,678トン、長さ(上甲板)70.1メートル、船体最大幅10.5メートル、主機不明、出力400公称馬力、外輪推進、速力12ノット。備砲(箱館戦争時)50ポンド前装施条砲1門、40ポンド前装施条砲10門ほか。安政2年(1855)プロシア軍艦ダンチヒ Danzig としてダンチヒで竣工。のち英国に売却されイーグル Eagle と改名。慶應2年(1866)江戸幕府が購入。明治2年(1869)箱館戦争で戦没

宮古湾海戦

箱館を拠点に明治新政府に対抗した榎本武揚（たけあき）ひきいる旧幕府艦隊は、明治2年3月（1869年5月）、宮古湾に停泊する政府艦隊の奇襲を計画した。接舷戦闘による「甲鉄」（原名ストンウォール）の奪取を狙っていた。

接舷戦闘は海兵隊の古戦法である。「回天」に乗り組んだフランス人軍事顧問が、作戦を指導した。「開陽丸」を江差でうしなった榎本艦隊は、攻撃・防御力抜群の「甲鉄」を奪い、劣勢を挽回しようとしたのだ。

作戦には「回天」「蟠龍（ばんりゅう）丸」「高雄丸」の3艦が参加。艦隊指揮は荒井郁之助、斬込隊指揮は土方歳三がとった。予定では「蟠龍丸」と「高雄丸」が「甲鉄」を挟むように接舷し、斬込隊が乗り込んで敵艦を奪取。「回天」は周辺の政府軍艦を砲撃する手はずだった。

3月21日（陽暦5月2日）、3隻は箱館を出航した。だが、「蟠龍丸」は荒天で脱落。「高雄丸」も機関故障で脱落。結局、荒井司令官は「回天」だけで奇襲することを決めた。

同25日（同6日）早朝、「回天」は米国旗を掲げ、米国船になりすまして湾内に侵入した。湾内には、新政府艦隊がボイラーの火を落として停泊していた。米国旗を掲げていたことに加え、外形も変わっていたため、新政府艦

隊は「回天」とは気がつかなかった。3本マストの「回天」は、榎本艦隊の北上中、房州沖で嵐に遭ってマストを折られ、2本マスト（1本は仮設）になっていたのだ。

ただちに開戦。「回天」は米国旗を日章旗にかえ、船首を「甲鉄」の左舷に突入させた。不意打ちに成功したが、外輪船の「回天」は、舷側を並べて接舷できなかった。そのため戦場所が船首だけとなり、斬込隊の行動はいちじるしく制限された。

加えて、突入した船首は「甲鉄」の上甲板より3メートルも高かった。「甲鉄」の舷側が低かったからだ。飛び降りる斬込隊は「甲鉄」のガットリング機関銃に狙い撃ちされ、死傷者が続出。艦長甲賀源吾も戦死した。攻撃は中止され、「回天」は退却した。

大正時代、「宮古港戦蹟碑」が宮古の大杉神社に建てられた。碑文は東郷平八郎の筆である。東郷は海戦のとき、砲術士官として政府艦「春日丸」に乗り組んでいたのである。

箱館湾海戦

「回天」は木造コルベット艦である。外輪機関とバーク帆装を装備。安政2年（1855）、ロシア軍艦「ダンチヒ」Danzigとしてダンチヒ（現グダニスク）で誕生した（英国建造説もある）。船体にはロシアのオーク材を使用。汽機とボイラーは英国製だった。兵装を含む機装は、英国でおこなわれたようだ。

のち英国に売却され「イーグル」Eagleと改名。慶應2年（1866）、幕府（長崎奉行所）が、米国商人を通じて洋銀約19万ドルで購入した。長崎湾警備が目的だった。購入時点で船齢11年の老朽艦であったが、船体、機関ともに堅牢であり、トラブルつづきの榎本艦隊にあつて、最後まで健闘した。

だが、榎本艦隊は結局、明治2年5月（陽暦6月）の箱館湾海戦で壊滅する。宮古湾海戦から2カ月足らずのことである。

箱館湾海戦における榎本艦隊の陣容は「回天」「蟠龍丸」「千代田形」の3隻。対する政府艦隊は「甲鉄」「春日丸」「朝陽丸」など6隻。質量ともに政府艦隊が優勢であった。出自が英国王室のロイヤルヨットという異色の軍艦「蟠龍丸」（169号本連載で紹介）が、12ポンド砲で「朝陽丸」を沈めたのが、榎本艦隊の最後の戦果であった。

主力の「回天」は、12ポンド以上の砲弾を105発も受けた。うち4発は「甲鉄」の300ポンド砲による命中弾である。操船困難にはなったが、沈没には至らなかった。

最後は、弁天台場の近くに擱座し、浮砲台となって戦った。が、上陸した政府軍に背後から砲撃を受け、万事休した。荒井司令官と乗組員は「回天」から退去した。その後、船は政府軍によって焼き払われた。

山田進生